

遠州梱包を子会社化

一般貨物取り扱い強化

マイシン

【愛知】マイシン（江富樹社長、愛知県豊橋市）は7月22日、遠州梱包運輸（小野田敏弘社長、浜松市東区）の全株式を取得し、子会社化した。8月12日、社長が明らかになった。今後、主力の冷凍・冷蔵の食品物流を基軸に、遠州梱包メインの自動車部品など一般貨物の取り扱いを強化することで業務領域を広げ、売り上げの拡大を図る。遠州梱包の社長は辻氏が兼務し、小野田氏は取締役に戻った。

（奥出和彦）

拠点の相乗効果にらむ

マイシンの2021年8月期の売上高は、前期比1.5%増の2億7千万円を、奥ごもり需要による食料品の伸びが業績に貢献した。

コロナ感染蔓延の影響を受け、20年10月期の売上高が前年同期比18.8%減の8億

9千万円と、厳しい状況となっていた。運営に将来的な不安を抱えていた経営陣が事業の売却も視野に建て直しを図る中で、両者の意思が一致した形だ。同社は16年に静岡県袋井市から現在の本社営業所に移転。東名高速道路・浜松インターチェンジ（IC）、浜松市東区）に近接し、6700平方メートルの敷地に物流倉庫や整備工場を構える。袋井営業所（袋井市）を舎

めて従業員は87人、保有車両は90台。マイシンは浜松東営業所の移転を計画しており、9月22日に遠州梱包から300坪の地点に、普通倉庫を併設する営業所の開設を控える。「施設が近く、相乗効果が図れる」（辻氏）との期待も、買取を後押しした。至近の遠州梱包と連携を図りながら、一般貨物の取り扱いを拡大する。遠州梱包は荷主との直取引が多く、自社車両の稼働比率が高いことから、辻氏は「適正価格による受注に努め、効率的な物流を進める。外注比率を高めながら成長を図り、地域に役立てる物流を展開したい」と展望している。



辻氏は「冷凍・冷蔵食品物流は競争が激しく、施設規模や輸送力を考えると大きな成長が見込みにく」と見しており、19年ごろから浜松東営業所（浜松市東区）を中心に一般貨物の取り扱いを強化している。

一方、遠州梱包は、新型冷凍・冷蔵食品を基軸に業務領域を拡大（マイシン本社営業所）